

花と緑の
あふれる
まちづくり

岡山市連合婦人会会報

平成29年11月5日
編集兼発行人
岡山市連合婦人会
岡山市中区小橋町 塩見 横子
編集部 〇四二六八八四六八
印刷所
岡山市北区表町一―四〇
株内外総合通信社

秋晴れの下自然満喫

家族ふれあい フェスティバル 婦人会は輪投げなど担当

平成29年9月10日(日)日応寺自然の森スポーツ広場にて約2千人が来場し、少年自然の家まつり&家族ふれあいフェスティバルが開催されました。香和中学校吹奏楽部のファンファーレで開幕し、会場には竹ぼっくり・バルーンアート・森のクラフトなどのコーナーが並んでいます。



竹ぼっくり



バルーンアート



森のクラフト



もちつき



ボウリングコーナーで、ペットボトルのピン目掛けてボールを転がす子ども(日応寺自然の森スポーツ広場)

婦人会が担当したの
はパン・お茶・ジュ
ースの販売とボウリン
グ・輪投げのコーナー
五歳の幼児から小学
低学年の子どもたちが
行列を作っていました。
度が高いのですが、失
敗しても子供たちの笑
顔は弾けています。
ボウリングの担当者
はピンが倒れる度に、
ピンを並べ直さないと
いけないので大変でし
たが、子どもたちの輝
く笑顔を見れば、そん
な大変さも吹っ飛びま
す。行列は参加賞のお
菓子がなくなるまで続
いていました。

とお菓子袋がもらえる
輪投げはなかなか難易
度が高いのですが、失
敗しても子供たちの笑
顔は弾けています。
ボウリングの担当者
はピンが倒れる度に、
ピンを並べ直さないと
いけないので大変でし
たが、子どもたちの輝
く笑顔を見れば、そん
な大変さも吹っ飛びま
す。行列は参加賞のお
菓子がなくなるまで続
いていました。



輪投げコーナーで婦人会員が見守る中、的に輪を投げる子ども(日応寺自然の森スポーツ広場)



約3キロの遊歩道を歩いた「わくわくウォーキング」(日応寺自然の森)

家族連れらが
3キロウォーク
十一時には、毎年好
評のわくわくウォーキ
ングです。
お天気に恵まれ爽や
かな秋晴れの下、岡山
県ウォーキング協会の
方が参加者百七十九名
に歩行上の注意点を詳
細に説明され、揃って
ストレッチをしてスタ
ートしました。
ウォーキング協会の
員の方の先導、協力の
もと、コースを守り、
幼児・児童を含む家族
連れが湿地の植物や木
々の説明を聞きながら
約三キロの遊歩道を歩き
ました。難所の丸太橋
では、家族で助け合っ
たり、せせらぎのほと
りでは休んだりしなが
ら完歩を目指して頑張
り、約一時間で全員ゴ
ールしました。
自然にふれあいなが
ら家族の絆も深まった
と思います。

1800人の長寿を祝福

高齢者の努力に敬服

岡山市合同
敬老会

平成二十九年十月
十二日(木)岡山下
山合同敬老会が開
かれ、市内各地の学
区・地区から約千八
百人の高齢者が集い
長寿の祝福を受けま
した。
十月一日の市長選
で再選された大森雅
夫市長が「岡山市は
高齢者が安全で安心
して暮らしていける
町づくりを推進して
いる。人生百年の時
代に、健康寿命の長
い高齢者の皆さんで
ありますように」と
長寿を祝福され、来
賓の方々からも長い
時代を支えてこれら



高齢者1800人が集い開催された岡山市合同敬老会(岡山ドーム)

た高齢者の努力に感
謝と敬服の言葉が述
べられました。
続いて高齢者单身
代表・高齢者夫妻代
表・高齢者有志など

表に記念品が贈呈さ
れ、高齢者代表の謝
辞がありました。
式典後は、幼稚園
児や婦人会有志など
会場までの往復、

の元気な演技があ
り、高齢者有志の演
技発表では見ごたえ
のある立派な舞台が
続きました。
最後は会場いっぱ
いの総踊り、大黒様
に「福あめ」を賜り、
人と人のつながりの
輪に明日への元気を
頂きました。市連合
婦人会塩見横子会長
が「来年もまた敬老
会でお会いしましょ
う」と締めくくって
閉会しました。

行き届いた
配慮に感謝
は、幸せもあって、
嬉しくて元気に帰れ
ました。

見守り、トイレなど
行き届いた配慮がさ
れていて安心して高
齢者へのお手伝いが
できました。演芸の
部で、九十六歳の方
の歌は声がよく、出
て、姿勢もよくて高
齢者のイメージが変
わりました。素晴ら
しさに、ただただび
っくりでした。
謝辞を述べられた
高齢者代表の方の原
稿なしには驚きまし
た。そしてもうお話
でした。
大黒様の「福あめ」

18チームが熱戦 福浜が優勝、2位大元

婦人バレー
ボール大会

熱戦が繰り広げられた婦人バレーボール大会



第四十二回岡山市婦人バレーボール大会が岡山市連合婦人会主催で七月十七日(月・祝)、岡山市総合文化体育館(岡山市南区浦安南町)で開催されました。

十八チームがAコートからDコートまで四グループに分かれ、トーナメント方式で実施しました。酷暑のなか、どのコートも熱戦で盛り上がりました。決勝戦の福浜チームと大元チームの熱戦は、目が離せない緊迫した好対決で、最後はスタミナのあった福浜チームが優勝しました。

閉会式で優勝杯を贈られる福浜チーム



会場では、参加チームの応援団や家族・地元婦人会員の声援で終日盛り上がったバレーボール大会でした。

来年こそは 特別に暑い中での試合で、福浜との戦いは本当に熱戦でした。大元フレッシュチームは三勲、御野、大野の各チームと戦い四戦目でスタミナ不足で福浜チームに負け、準優勝に終わりましたが、来年に向けての目標ができたと思います。

車椅子に試乗する庄内学区の関係者



庄内コミュニティハウスでは、贈呈式に塩見会長ら役員四名と庄内コミュニティ協議会内田会長や荒木連合町内会長ら関係者七名が参加しました。内田会長は乗り心地を試し、「軽くて扱い

地域で役立てて プルタブ集め車椅子贈る

岡山市連合婦人会では、活動の一つとして毎年車椅子の寄贈をしています。

今年度は六月二十六日(月)雄神コミュニティハウスと庄内コミュニティハウスに寄贈しました。

庄内コミュニティハウスでは、贈呈式に塩見会長ら役員四名と庄内コミュニティ協議会内田会長や荒木連合町内会長ら関係者七名が参加しました。

やすく、良い品を頂きました。地域の方々のために活用します」と謝辞を述べられました。



庄内コミュニティハウスでの贈呈式に参加した関係者の皆さん

婦人会員等がプルタブを集め、収益金で二〇〇七年度より寄贈した車椅子は、十一年間で三十九台となりました。

障害者や高齢者支援のため、婦人会員や市民の方から毎年、「愛の募金」として募り、その一部を被災地域緊急援助基金としています。今回も義援金として被災地の方に届けられます。

九州北部豪雨 被災へ50万円

平成二十九年八月十六日(水)、岡山市連合婦人会は、今年七月の九州北部豪雨で甚大な被害を受けた被災者に役立てて頂くため義援金五十万円を日赤岡山県支部へ寄託しました。

平成29年度 岡山市連合婦人会運営体制図



会長研修

女性視点の防災学

防災会議 創設など 先進的活動に感銘

岡山市連合婦人会の「会長研修」が七月六日(木)〜七日(金)の二日間、高松市と鳴門市で行われました。学区・地区の会長三十名が参加し「心のかようまちづくり」をテーマに情報交換会や施設見学をしました。

1日目

高松市婦人団体と情報交換
一日目は、高松市婦人団体連絡協議会との情報交換で、地域の女性リーダーとして活発な婦人会活動が行われ

ている様子の説明を受けました。災害の弱者を守る活動として「高松市連女性防災会」を立ち上げ、女性の視点から見た災害、防災、対策を考え、だれもが安心できる避難所づくり、災害時の避難所運営ハンドブックを作成し、地域で活用されている状況を聞きました。

2日目

鳴門市ドイツ館を見学
二日目は、評議員会の後、鳴門市ドイツ館へ。一九一七年〜二〇

年までの三年間、第一次世界大戦中、ドイツ兵千人が俘虜として板東の人々とのあたたかい交流の様子や日本交響曲が全楽章初めて演奏されたこと等、当時のドイツ兵たちの音楽活動が紹介され、等身大の人物が演奏を聴かせてくれました。ドイツとの国際交流を深める目的でドイツ館はつくられています。



高松市婦人団体連絡協議会との情報交換会であいさつする塩見会長(高松市男女共同参画センター)

館内を見学する参加者(鳴門市ドイツ館)



東俘虜収容所で過ごした施設を見学しました。俘虜として収容所で過ごしたドイツ兵と板東の人々とのあたたかい交流の様子や日本交響曲が全楽章初めて演奏されたこと等、当時のドイツ兵たちの音楽活動が紹介され、等身大の人物が演奏を聴かせてくれました。ドイツとの国際交流を深める目的でドイツ館はつくられています。

総会

消費者の権利確立へ

塩見会長ら東京・主婦会館で研修
役員4人
平成二十九年六月七日(水)、東京・主婦会館で開催された主婦連合会総会と消費者ゼミナールへ、塩見会長他三名が参加しました。

総会

今年度運動方針を採択

総会では、二〇一七年度の主婦連合会運動方針「消費者の権利を

報告

岡山からは市消協調査事業

二〇一六年度の事業報告では、支部報告として岡山市からは消費生活研究協議会事業報告と「岡山市消費生活センター認知度」及び「消費生活に関するアンケート」調査の報告をしました。

続いて、大阪支部からは消費者相談に力を注ぐとともに、情報誌の発行やFMラジオによる毎月の放送で情報提供を行っているとの報告がありました。

主婦連合会からの報告として▽食料部からは、宅配弁当の調査活動▽衣料部からは、子供服の安全に関するJISについての市場調



会長研修の参加者(高松市こども未来館)

子どもにおせっかい 地域で成長支える環境を

婦人リーダー養成研修会

6月28日(水)、岡山ふれあいセンターで婦人リーダー養成研修会が開催されました。テーマは「今、子どもの何が課題となっているのか〜地域全体が子どもの成長を支えることの意味〜」、講師は香川大学生涯学習教育研究センター所長(教授)清國祐二氏でした。



講演する清國氏



熱心に聴講する婦人会員ら(岡山ふれあいセンター)

何が子どもの未来を決める?家庭でしようか?育った家庭の状況で子どもの学歴や将来の所得が決まってくるという統計はある(世界の国の統計をみて解説された)

やはり家庭、親子関係でしょうか?自制心の要素とも考えられる「やり抜く力」「あきらめない力」を非認知能力と呼び、測定できない、数値で示せない力なのです。IQやセンター試験は認知能力と呼び測定できる力です。そう言いながら、親だけでは子どもは育たない。地域のおじいちゃん、おばあちゃん

子どもを育てるので、地域での体験や勉強は遊びにちいかたが、子どもの未来にもつながること、元気を頂いた講演でした。ありがとうございました。

岡山からは市消協調査事業

憲法学教授の清水氏が講義

午後からの消費者ゼミ

二〇一六年度の事業報告では、支部報告として岡山市からは消費生活研究協議会事業報告と「岡山市消費生活センター認知度」及び「消費生活に関するアンケート」調査の報告をしました。

続いて、大阪支部からは消費者相談に力

主婦連合会からの報告として▽食料部からは、宅配弁当の調査活動▽衣料部からは、子供服の安全に関するJISについての市場調

主婦連合会総会では岡山市消費生活研究協議会事業やアンケート調査について報告(東京・主婦会館)

青空の下颯爽と

岡南飛行場 防災ヘリ見学も

緑のハイキング

平成二十九年十月四日(水)参加者九十六名で南区浦安西公園集合、岡南飛行場へ緑のハイキングが実施されました。

出発前に、両備ヘルシーケアの指導員から健康体操指導を受けました。血行促進のための肩甲骨内外運動や腕振り基本姿勢、ストレッチ。印象的だったのは、体重四十キの人の頭の重さは四キの消火器ほどもあるということ。そんなに重たい頭を支えるためには筋力を鍛えることが大事であると話されました。そのうち、総合文化体育館を出発。岡南飛行場をめざしました。予定時間より早く着いたようでした。飛行場では、岡山市消防局防災ヘリコプター「ももたろう」の見学。三班に分かれて、若い隊員の説明を聞きました。格納庫の中には、救急・救助・消火・物資輸送・水難救助などの装備品が用意されており、各種災害に応じて、各種災害に際しては、器材を搭載して活動する



青空の下、ハイキングする参加者(岡山市南区)

り、これだけでも二億円。プロペラ一枚で家が軒建つぐらいの価値だということ。ヘリコプター一台は十億円ほどすることなど、楽しいお話もしてくださいました。

帰りは南区役所をめぐるということでした。テレビ放送システム用のカメラが装備してあ



防災ヘリコプター「ももたろう」を見学する参加者(岡南飛行場)

た。昼食後、寄せ植え希望者二十四名で庭園都市推進課の柴田さんの指導で寄せ植えをしました。柴田講師は今年のため今年が最後のご指導になります。丁寧なご指導をいただきました。土づくり、苗の選び方、苗と苗の間に空間があると根が伸びて行かないので、ちゃんと土を詰めるようにとか、鉢の置き場所を考えて、苗を配置するようになど



緑のハイキング参加者(岡山市総合文化体育館)

ペットボトルが器に

親子ガーデニング教室 ポトスやレタス育てる



作業前に説明を聞く子どもたち(庄内学区学童保育「ひかりクラブ」)

描いていきます。画用紙と違って立体の容器は、なかなか皆さん苦労しています。終ると容器に土を入れ、ポトスやレタスを植えて出上がりです。満足そうな笑顔でお互い見せあっていきます。大きく育ててはさみで切った料理に添えましょう。



完成した作品(庄内学区学童保育「ひかりクラブ」)

容器になって楽しかったけど、むずかしかった。夏休みの楽しい思い出になった事でしょう。

平成二十九年七月二十五日(火)庄内学区学童保育「ひかりクラブ」では児童等三十名が夏休み恒例の親子ガーデニング教室をしました。

公園協会の職員の指導で、ペットボトルや牛乳パックをはさみで切り、色鮮やかなカラーテープで切り口に縁

研究、小麦粉の厳しい製品管理、保管流通が一体化されています。

一連の流れのなか、安全で美味しい小麦粉を消費者に届ける心意気と取り組みに感動すら覚えました。小麦を砕く、ふるい分ける、包装出荷、家庭・業務用すべて人の手を煩わせることなく機械化され、私たちの底にある、石臼、水車の時代から思うと、只々進化、ス

取りをし、マジックペンで自分の好きな絵を

前向きに出来ることを

編集後記

今年の天候不順には悩まされます。地球温暖化が叫ばれている昨今です。昨年の夏の暑さは格別でした。今年は日替わりで季節が変わっていくようです。政界も目まぐるしく変化し、世界も目が離せない。防災が、他人事ではない世の中になりました。

そのような中でも私たちは地道にコツコツ少しでも住みよい地域に、そして安全で安心な生活をしたいです。

さて、今まさに芸術の秋。岡山市内中心にある芸術の交流が盛りだくさんです。また、おかやまマラソンも三回目を迎え、スポーツの秋ともなりました。三年後の東京オリンピック・パラリンピックも楽しみに、前向きに、学区地区のために自分たちに出来ることは何なのかを微力ながら考えていきたいと思います。

小麦粉の製造現場見学

日清製粉 安全に対する取り組み



製造現場の見学前に、日清製粉の商品を確認する参加者(日清製粉東灘工場)

平成二十九年九月十七日(水)日清製粉(株)東灘工場&阪神サイロ(株)の見学に行きました。私たちの食生活とは切っても切

り離せない小麦粉の製造過程を見学させて頂きました。

一行七十六名はバス二台に分乗し、日清製粉東灘工場に到着。会社側から「信頼と健康をお届けします」とのメッセージを受け取り、白衣に身を包み貴重金属類もはずし三班に分かれて、説明を受けました。化粧室は手を消毒しないとドアが開かないというカルチャーショックから始まり、北米から輸入された小麦は、船便と管



東灘工場の概要の説明を受ける参加者(日清製粉東灘工場)

理されて小麦粉になり、私たちの手元に届くまでの工程は小麦の

